

2023 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	准教授	渡辺弥生
最終学歴	学 位	専門分野
愛知医科大学大学院看護研究科修士課程修了	修士	老年看護学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画

(理念)

「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」というコンセプトをもとに一人一人の学びのニーズにこたえるよう学生とのコミュニケーションを大事にし、教育活動を行っていく。また「真面目」の校訓を意識し学生が誠実に学業に取り組むことができるように教育を進め、将来の生き方に反映できるように取り組む。

(目標)

- ・「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を念頭に、教科の目標の達成および資格取得（健康管理士）を促す。
- ・ 関心、興味のもてる講義を展開し、知識の定着を目指すとともに講義への出席率を高める。
出席することでの評価はしないが、出席したほうが学びがあると考えられるような方法で授業を展開する。
- ・ 人間健康学部で学ぶ意味は健康に毎日活動することであり、健康観を育み、知識を高める。
- ・「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」のコンセプトを意識し一人一人の学生の思いを尊重し、目標が見えてくるよう関わることで、将来の目標が見えるようにする。
- ・ 学生に対してユーモアや親しみやすさを持ち、教員が「真面目」に取り組むことで学生にも自ら「真面目」に取り組む姿勢を持ってもらえるようにまた自信をもって、社会で活躍できるよう、「感じの良い態度」の育成を目指し関わる。
- ・「子弟を教育するは、私事に非ず。天に事（つか）うるの職分なり」を念頭に自らが謙虚にまじめに教育に専心する。

(方針) 授業では、真面目の取り組むことでの成果を示していく。学生の個人を尊重し有意義な学びの機会を提供する。

(計画)

○担当科目（前期・後期）

(前期)

医療概論、環境保健論、基礎演習Ⅰ、人間健康学、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、養護概説

(後期)

看護学、基礎演習Ⅱ、健康科学概論、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ

○教育方法の実践

今年度も受講生は多く、細かい配慮は難しい側面があったが、誠実に学ぶというポリシーは変更せず、毎回の課題最終試験を行った。毎回の課題は手元の資料を自ら作成しないと持ち込み試験は点数が取れないため、授業中の私語は少なく真面目に学んでいたと考える。

○作成した教科書・教材

今年度はない

○自己評価

授業は、課題を課し、欠席すると不利という資料作成方式で毎回しっかり行ったが、中間点で欠席が多くなってしまった。最終的には「K」となった学生も8%程度みられた。受講者が多く授業内に会話をさせると収拾がつかないという側面もあるが、学生が自ら考えられる時間をもつようにしてあまり詰め込みすぎないように余裕をもった授業内容にして、受講者がリタイアしないように工夫が必要と考える。一方でテストまで地道に行った学生は真剣にテストに取り組み、授業をすべて終えての達成感や満足感は得られた学生もいたのではないかと考える。

Ⅱ 研究活動

○研究課題

1. 看護師の誇りに関する研究
2. 大学生の少子化問題への関心と養護概説での学び—養護概説受講後の学生へのアンケート調査から授業内容を検討する—（仮）
3. 一般大学学生と看護学生の健康観と健康習慣

○目標・計画

（目標）上記の3つの研究について論文の発表と作成、投稿を行う。

【計画】

1. 現在日本看護管理学会への投稿を行い、発表に向けた準備中である。論文投稿を予定している。
2. 9月に紀要へ投稿予定である。データ収集分析は終了したため、論文作成を行う。
3. データの収集分析は終了している。学会発表を検討中である。

○2016年4月から2024年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）・渡辺弥生 地域創造研究叢書 34 高齢者の保健・福祉・医療のパイオニア

「高齢者の認知症予防とケア—家族は何ができるのか—」2020

・渡辺弥生 地域創造研究叢書 35 少子高齢社会のヒューマンサービス

「日本の少子化と看護の役割」2022

（学術論文）

- ・渡辺弥生、森香津子、野口健太 「3～4年目看護師の職業に対する誇りに関わる思い」看護管理学会投稿中
- ・渡辺弥生、柴田竹晴 看護学生と一般学生の健康習慣と健康観の比較検討 本学紀要投稿中
- ・渡辺弥生 養護概説の授業内容の検討 —少子化問題を理解するために—東邦学誌第52巻第2号 2023 12月
- ・渡辺弥生 人間健康学部で「医療概論」を受講する学生の健康習慣と健康観の状況 東邦学誌第51巻第2号 2022 12月
- ・渡辺弥生、稲葉太香子「一般大学生の看護イメージ 最終講義後の調査」愛知県看護教育研究学会第24回 2021
- ・渡辺弥生、竹下美恵子 「人間健康学部で「医療概論」を受講する学生の医療イメージ」東邦学誌第48巻第2号 2019
- ・渡辺弥生、稲葉太香子「一般大学生の看護イメージ—看護学の初回講義後の調査—」愛知県看護教育研究学会第23回 2020
- ・渡辺弥生、野口健太、麻績恵 「看護を学ぶ社会人学生の臨地実習での思い」愛知県看護教

育研究学会第 22 回 (p23~29) 2019

- ・渡辺弥生、野口健太、柴田竹晴 「基礎看護技術テストにおける模擬患者体験をした卒業生の思い」 愛知県看護教育研究学会第 21 回 (p32~37) 2018
- ・渡辺弥生、野口健太、三井美智 「看護専門学校における学生への欠席に対する指導 A 県内看護専門学校の教務主任の調査」 日本看護学会 (教育) (p43~46) 2018
- ・野口健太、島田美奈、渡辺弥生、井本英津子 「看護専門学校における新人看護教員のストレス要因と支援状況 講義・演習に焦点をあてて」 愛知県看護教育研究学会第 19 回 (p45~52) 2016

(学会発表)

- ・渡辺弥生、森香津子、野口健太 3~4 年目看護師の職業に対する誇りに関わる思い 第 27 回日本看護管理学会学術集会 2023 年 8 月
- ・渡辺弥生、柴田竹晴 看護学生と一般学生の健康習慣と健康観の比較検討 第 17 回看護教育研究学会学術集会 2023 年 10 月
- ・渡辺弥生、竹下美恵子 人間健康学部で「医療概論」を履修する学生の—医療イメージ 第 28 回愛知県看護教育研究学会
- ・渡辺弥生、野口健太、麻績恵 「看護を学ぶ社会人経験者の臨地実習での困難感 医療職の常識と一般職の常識」 日本看護学会 (看護教育) 2018
- ・渡辺弥生、野口健太、麻績恵 「看護を学ぶ社会人経験者の臨地実習での困難感 実習評価に焦点をあてて」 愛知県看護教育研究学会第 7 回 2018
- ・渡辺弥生、野口健太、三井美智 「看護専門学校における欠席状況に関する調査 欠席を少なくするための取り組み第 1 報」 愛知県看護教育研究学会 2016
- ・渡辺弥生 「病棟看護師の高齢者への退院支援に関わる行動と高齢者理解とその関連要因」 日本看護学会 (管理) 2016

(特許)

(その他)

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況 (学内外)

なし

○所属学会

日本看護学会、愛知県看護教育学会、日本老年看護学会、看護教育研究学会、日本看護管理学会

○自己評価

本年は、「渡辺弥生、森香津子、野口健太 3~4 年目看護師の職業に対する誇りに関わる思い」 第 27 回日本看護管理学会学術集会

「渡辺弥生、柴田竹晴 看護学生と一般学生の健康習慣と健康観の比較検討」 第 17 回看護教育研究学会学術集会の 2 本の学会発表を行った。発表については質問も多く反応もよかった。論文は、「渡辺弥生、森香津子、野口健太 3~4 年目看護師の職業に対する誇りに関わる思い」看護管理学会投稿中で、「渡辺弥生、柴田竹晴 看護学生と一般学生の健康習慣と健康観の比較検討」 本学紀要投稿中「渡辺弥生 養護概説の授業内容の検討 —少子化問題を理解するために—」 東邦学誌第 5 2 巻第 2 号 2023 12 月に掲載された。2 年間ほどかけてデータ収集し、分析し一気にまとめた。授業や学務もあり大変であったが、研究協力者の協力もあり達成できたことはよかったと思う。また関心も高いテーマでありさらに深めていきたい。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

(目標)

【目標】

保健の観点から学生と教職員の健診の実施、感染予防を感染対策委員会と共に実施する。

保健・学生相談センター長としてセンターの運営、役割を全うする。重点目標を達成するための課題を整理し実施計画を作る。解決策を実行する。

(計画)

相談に関する問題やカウンセラーとの連携を密にしていく。合理的配慮学生への対応の実施

学生相談センターのスムーズな運営、環境整備の実施を行う。本年は医療機関との連携について具体的にしていく。

○学内委員等

保健・学生相談センター長 保健・学生相談センター運営委員長 衛生委員会委員

○自己評価

本年は学生の様々な問題があった。コモンズ内に快適な学生相談センターができて2年で、学生の居場所として認識され、有効に活用されたことは大変良かった。しかし課題を持つ学生が目立ってきた側面もある。そのため様々な課題があり、チームで（委員会、公認心理師、養護教員、事務担当者）で一丸となって活動し、学部教員や保証人との連携により問題解決に当たった。チームが役割を果たし、学生が卒業に向けて頑張った事例も多かった。一部困難な事例もあったため計画通り大学と医療機関との連携を行うよう関係各所に依頼し、来年度からは医師による相談を行うように進めることができた。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

(目標)

1. コロナ感染症との共存という社会的な状況下で、ゼミ活動を活性化させる。以前より活動してきた献血への協力を行う。
2. 看護専門学校の教員が不足していることがあるため、できる範囲ではあるが講義など協力していく。

(計画)

○学会活動等

愛知県看護教育研究学会の大会運営を行った。

○地域連携・社会貢献等

1. ゼミにおいて日本赤十字献血センターの役割について講義を予定している。ゼミ活動の一環として希望者とともに献血協力を実践する。
2. 本務に影響がない範囲で、看護専門学校より依頼された授業を行う。

○自己評価

ゼミ活動で日本赤十字献血センターの役割について講義を実施した。まとまって献血活動は行えなかったが、学生の反応は良く個人で献血を行った学生もいた。今後も協力できるようにしていきたい。看護学校の講義では高評価を得た。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

本年は愛知教育看護学会で学会大会長を務めた。計画したシンポジウムは大変好評であった。その後学会誌の発行の責任者として活動した。

VI 総括

本年は本務では、授業も通常の人数に戻り、多くの学生の授業、評価を行った。専門演習ではゼミ論の指導を行ったが、意欲的な学生が多く個別指導に時間をかけたことから学生にとってもよい論文の作成、発表となり満足感も高かった。保健学生相談センターの課題が多く、皆さんの協力で運営できた。次年度からの医療機関との連携をスムーズに行えるよう努力したい。その大変な中で研究発表2本と論文3本を仕上げることはよかった。今後も研究にも前向きに取り組みたい。学部内での役割として卒論発表会を企画運営したが好評であった。

以 上